2026 年 11 月 17 日

鶴来商工会

北陸鉄道株式会社

鉄道会社と商工会が地域活性化で連携（鉄商連携）、全国でも珍しい取り組み

鶴来駅に交流・情報発信拠点「つーる」来春オープン予定

～人と人、人と地域を未来へつなぐ“交流の場”へ～



つーる

左：改修後の外観イメージ（計画案：株式会社 ENN）、右：店舗ロゴ案

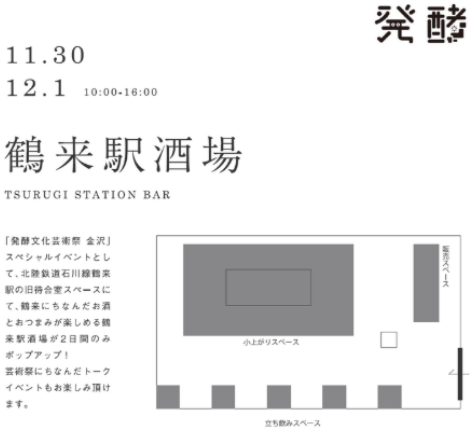
鶴来商工会（会長：長基健司）と北陸鉄道株式会社（代表取締役社長：小林工）は、北陸鉄道線鉄道事業再構築事業の一環として、鶴来駅舎の空きスペースを活用し、交流および情報発信拠点「つーる」を２０２７（令和９）年春に共同でオープンする予定です。実現に当たっては、小田急電鉄株式会社（本社：東京都）の協力がありました。

「つーる」は、地域住民や観光客、起業・移住を考える人が気軽に立ち寄れる、まちの案内拠点です。喫茶や地域産品の販売をきっかけに、地元ならではの店や人を紹介しまちなかへの回遊を促します。交流イベントや商工会による創業相談を通じ、鶴来に関わる人と新たな担い手を増やし、電車の利用客増加にもつなげます。

「つーる」のロゴは、旧鶴来町の町報誌「広報つるぎ」のロゴを採用しました。つーる運営の資金確保と認知度向上を目的としたクラウドファンディングを、12 月中旬に実施する予定です。

きっかけ

2024.9～12 月に２１世紀美術館が開催した「発酵文化芸術祭金沢」で、プロデュース業務を担っていた小田急電鉄株式会社の担当者が鶴来を訪れ、鶴来エリアに様々なポテンシャルを感じ、会期中に北陸鉄道や鶴来商工会の協力を得て、鶴来駅空きスペースを活用した「鶴来駅酒場」を実施しました。当日は天候不良にもかかわらず多くの方が訪れ、鶴来の地酒を楽しんでいただく機会が創出されました。



「鶴来駅酒場」の成功をきっかけに、鶴来駅舎空きスペースの活用について、「来訪者が滞在し、人が出会う場所」「地域の人と人が交わり、駅周辺の活性化につなげる新しい場所」として活用できないか、北陸鉄道と鶴来商工会、地域住民、そして駅周辺の活性化に多数の実績がある小田急電鉄や金沢の設計事務所である株式会社 ENN（代表：小津誠一）が参画し、協議を進めていきました。

交流・情報発信施設「つーる」顧客ターゲット・コンセプトについて

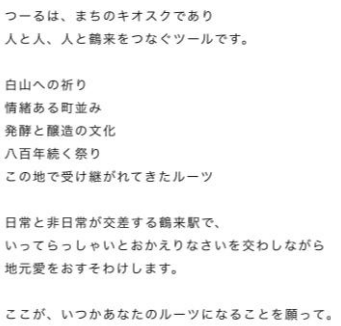
1，　顧客ターゲット

鶴来・白山麓を訪れる観光客、日常的に駅や地域を利用する住民・学生、鶴来での起業や移住を考えている方。まちを知る、地域の人とつながる、開業への一歩を踏み出す機会を提供します。

2，コンセプト

「まちの案内」×「未来の担い手づくり」を目指します。

「つーる」には、鶴来の魅力を伝え、挑戦に使える道具〈Tool〉と、駅をきっかけに人が地域に根づくきっかけ〈Root(s)〉になるという思いを込めています。



上：「つーる」コンセプト

施設の設計・機能

提供サービス①カフェ運営

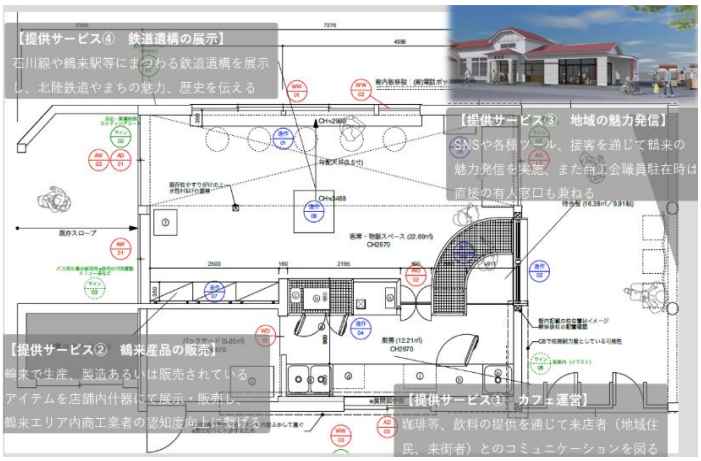
珈琲等、飲料の提供を通じて来店者（地域住民・来街者）とのコミュニケーションを図ります。

提供サービス②地域産品の販売

鶴来で生産、製造あるいは販売されているアイテムを店舗内什器にて展示・販売し、鶴来エリア内商工業者の認知度向上につなげます。

提供サービス③地域の魅力発信

SNS や各種ツール、接客を通じて鶴来の魅力発信を実施。また商工会職員も不定期で駐在し、直接の有人窓口も実施します。



提供サービス④鉄道遺構の展示

石川線や鶴来駅等にまつわる鉄道遺構を展示し、北陸鉄道やまちの魅力、歴史を伝えます。

今後の展望

鶴来では新たな開業の動きがあるものの、少子化や若い担い手、電車の通学利用者の減少など、10 年、20 年先の地域経済への懸念があります。今回の取り組みは長年地域の交通を守ってきた鉄道と、地域経済の活性化に尽力してきた商工会がタッグを組んで地域活性化に取り組む全国でも珍しい取り組みです。駅での出会いをまちなかの回遊や消費、新たな開業へとつなぎ、地域の商いと鉄道を次世代へ引き継ぐことが私たちの目標です。地域と旅人、移住者と地域住民をつなぐ拠点として、鶴来の魅力発信に取り組んでいきます。